

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493300097	事業の開始年月日	平成16年10月1日	
		指定年月日	平成21年10月1日	
法人名	株式会社 ニチイ学館			
事業所名	ニチイケアセンター長津田			
所在地	(226-0018) 神奈川県横浜市緑区長津田みなみ台5-26-13			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成28年8月25日	評価結果 市町村受理日	平成29年12月1日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の運営方針として掲げている「安全を第一」に努めながら「その人らしさ」を優先に考えお客様を大切にすること。また、ひとつの家族のようにほのぼのと、一人一人がその人らしく毎日をゆうゆうと過ごしていただけることを心がけています。定期的に近隣の小学校との交流会を行ったり、ボランティアとして、ハーモニカ演奏や玄関や花壇のお花のお手入れをしていただいています。職員は明るく丁寧に親近感が湧く対応をそれぞれが特徴を活かしながらお客様と日々接しています。周囲の環境は、平坦な道が多く段差も少ないため散歩に出かけても歩きやすい環境で、近くにスーパーもあるためお客様とお買い物に出かけることもできます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成28年9月30日	評価機関 評価決定日	平成28年11月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、JR横浜線長津田駅からバスで5分ほどの場所に位置し、近くには大規模団地や大型商業ビル、ファミリーレストランなどがある為、人通りが多い。法人は施設などを全国規模で展開している。この事業所は別法人から運営を引き継いだ、開設からは12年を経ている。</p> <p>【法人のバックアップ体制】 法人の職場支援として、事業所間で相互に職員が勤務する仕組みがある。その結果、手薄な職員体制のサポートだけでなく交換研修としての成果も出ている。顧客アンケートの実施、防災備品の確保なども法人からのバックアップがある。法人内で書式を統一し、日々の業務の効率化を図っている。また、法人は職員のキャリアアップにも熱心で、研修受講や資格取得の応援をしている。その結果、資格を持つ職員が多く働いている。</p> <p>【立地を生かした支援】 事業所のすぐ横には大きな公園があり、大型ショッピングモールやレストランなどにも隣接しているため外出には事欠かない。歩道は自転車の利用がしやすいように段差にも工夫されているので、車いすでも移動できる場所が多い。利用者は毎日職員とともに散歩や買い物に出かけている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンター長津田
ユニット名	1階 ほのぼの

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は開所当時より作り事務所にて掲げている。1階は一つの家族のようにほのぼのとした家、2階はその人らしく豊かにゆうゆうと過ごせる家となるよう努めている。	事業所の理念は前管理者が作成した。理念は新人研修時に学習する。法人の社是は唱和することはあるが、理念についての話はあまりすることはない。毎月の目標を定めて業務に行かしている。職員は、各ユニット名にちなみ、ひとつの家族のように「ほのぼの」と、また「ゆうゆう」と過ごせるよう努めている。	理念は職員をまとめる大切な柱です。理念についてそれぞれの職員の思いが同じ方向に向くよう管理者は話し合う機会を設け、思いを共有できるよう期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所開設時から自治会への加入をしています。隣の建物で時々行われるバザーにお客様と足を運んだり、近隣の美容院へ通い、顔馴染みになることで事業所としてのご理解もいただいている。	自治会に加入し職員が防災訓練に参加したり、ゴミ集積場の清掃をしている。近隣小学校の福祉委員会の生徒20名が来所し、利用者や交流している。ハーモニカ演奏やフラダンス、傾聴ボランティアが来訪している。今年「認知症講習会」を開催し、住民らに身体介護や車いすの操作を体験してもらった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校で活動している福祉委員会の生徒たちと交流会を重ね、認知症高齢者と関わりを持ち、認知症についての理解や関わり方の工夫や方法を学んでいただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議の開催をしています。ご家族、地区民生委員、地域包括センター職員、他法人の管理者に参加して頂き、状況報告と改善点について話をして	運営推進会議は、隔月に家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員、近隣グループホーム管理者の参加を得て開催している。会議では利用者状況や活動報告、事故報告等を行っている。民生委員からボランティアを紹介してもらったり参加者から人材確保やグループホームでの看取りについての質問があった。	地域とのつながりをより大切にするため、会議に出席してもらえよう地元自治会に呼びかけることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	横浜市認知症協議会に加入し意見交換等をしサービスの質の向上に取り組んでいる。	緑区役所窓口で運営推進会議の議事録提出や要介護認定の更新申請をしている。横浜市役所の集団指導講習会に参加したり、事故報告を行っている。グループホーム連絡会に加入し、事例検討や研修を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを設置しいつでも内容が確認できるようにしている。 なにが身体拘束にあたるのか職員がそれぞれ意識しながらケアに努めている。	身体拘束委員会を設置しており、委員会職員2名が中心となり、各ユニットで話し合いを行っている。法人が行う研修会に参加したり、事業所内で研修を実施している。玄関は日中施錠していないが、ユニット入口は階段からの転落などのリスクを考えて施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてのマニュアルを設置しいつでも内容が確認できるようにしている。 声かけの言葉やコミュニケーションの取り方に注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性がある場合は、話し合いの場を設け支援に繋がるようにしていくと同時に職員にも学ぶ機会を設けていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居前に契約書に沿って読み合わせをしながら十分な説明を行い、不安な点や疑問点がないか確認をしながら、ご理解とご納得いただけるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員もご家族のご意見・ご要望を常に聞き、内容を共有をしていくことで反映につなげられるようにしている。 苦情連絡相談窓口を設置と連絡先の掲示、玄関にご意見箱も設置している。	法人は毎年満足度調査を行っており、改善に役立っている。家族からは「行事内容が分かりやすいように写真を掲載して欲しい。」との要望があり、居間での掲示を考えている。「掃除を丁寧にして欲しい。」との要望に対してはベッド下や隅を丁寧に掃除することやクローゼット整理等を行うなどの改善をした。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やホーム会議を開催し、意見交換や提案する場を設け内容の共有を図っている。個々でも話しを聞くようにしている。	管理者と職員は、毎日の申し送りや毎月のホーム会議、ユニット会議で話し合いを行っている。職員から朝食の買物を効率化したいとの意見があり、朝食メニューを作成した際に買物リストを作成したところ業務が大幅に改善された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の健康状態や勤務状況など話しを聞きながら把握に努めている。また家族愛経営を念頭にサンクスファミリーデーを設け条件整備も行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内で開催される研修の紹介と参加を促している。外部研修についてもできる限り日程が合う研修については参加ができるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他グループホームと相互で運営推進会議に参加し、同業者としての問題点、改善方法の共有を図り、良いものを反映していくことでサービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご自宅への訪問やご来所していただき、実際に施設の雰囲気を感じていただきながら、不安なことや要望についてお話を伺い安心していただけるよう関係をもつようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご自宅への訪問やご来所の際にも不安な点やご不明点、ご要望についてお話を伺い、安心と信頼をもっていただける関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況把握を行い、その時に必要な支援の内容とご要望に応じて対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様個々で得意な事やできる事が行える環境を作り、買物の外出や家事を一緒に行ったり、コミュニケーションを日々取ることで共に生活をしている事を感じていただけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出、外食、外泊がいつでもできるようにしている。本人からの職員やご家族へのご要望やご意見については内容の共有をご家族とすることで、共に支えていける関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	交流をされていた馴染みの人やご友人にはご家族確認のもとご来所いただき関係性が継続されるようにしている。馴染みの場所や物についても外出できるよう支援をしたり持ってきていただき馴染みの環境が保てるよう務めている。	昔からの友人に電話をもらったり、友人が来訪した際には居室で面会している。職員は年賀状のやり取りを支援したり、電話があった際には、取次ぎをしている。入居前から利用している馴染みの美容院に、月1回職員と出かける方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1階、2階の交流を持てるようにしながら、コミュニケーションがうまく取り合えるよう職員が橋渡しを行いながら関わりをもてるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去をされた後もご本人の状況について連絡をいただいている。他施設へ移られたあとも相談の電話を承り、一緒に改善策を考えたりもしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	外出が好きな方は散歩や買物へお誘いしている。ご本人の希望や意向をお聞きし、意思確認をした上で、できる限り希望に応えられるようにしている。	初回のアセスメントは本人と家族がグループホーム来所時に行っている。入居後は利用者と1対1になった際に、思いや気持ちを聞き取るようにしている。意思疎通が困難な方には、選択肢を提示したり表情から意向を汲み取っている。センター方式のアセスメント用紙を使用しており、利用者の希望は申し送りや業務日誌で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を基にサービス利用歴や経過の把握をしている。ご家族にも生活歴や馴染みの暮らし方についての情報をお聞きし入居後も反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調管理と観察からお客様の状態変化を把握し、状況に応じた対応方法や注意点などの情報共有を図り、適切な対応をするよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者が中心となり課題点や利用者の気持ちの把握に努めモニタリングを実施。意見を基にカンファレンスを開催し、現状に沿った介護計画の作成をしている。	毎月行うカンファレンスで職員が話し合いをし、サービス担当者会議で計画の検討をしている。医師の意見は往診記録から計画に反映している。介護計画は基本的には半年ごと、変化があれば随時見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々介護記録や管理日誌を活用しお客様の特変や気づきを記入しつつでも確認できるようにしている。申し送りでも職員間での情報共有を図り、対応する事で改善点や発見を介護計画の見直しに活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じてその場につき添う要望などがあつた場合は事前連絡のもとご家族の宿泊も可能となっている。 ニーズに沿った対応ができるように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーへの買物に出かけたり、散歩中に近隣の方との交流や子供達との交流も図れている。また美容院へ付き添いカット、カラーをすることで心身の力を発揮し豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ユニット毎で9名の往診が隔週2回あり、職員からの日々の情報提供を行い、状況に応じた適切な診察が受けられるよう医師とも連携を図りながら健康管理に努めている。突発的な病状についても臨時往診が受けられる態勢がある。	利用者全員が月2回協力医の訪問診療を利用している。訪問看護師は毎週来訪し、健康管理等を行っている。歯科医は希望者を対象に毎週往診している。専門医の受診は家族が対応している。訪問マッサージを利用したり、介護タクシーを利用して通院する利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師が来ている。お客様の健康状態を相談をしながら連携をとり健康の維持に努めている。往診医との相談ツールとしても活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際はご本人の様子と現状の確認や処置内容など面会に訪れた際に把握するようにしている。ご家族や病院とも連絡を取りながら情報交換をし、関係性を作っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	平成23年より医療連携体制加算をとっている。利用者が重度化や終末期となった場合には提携医、訪問看護師と相談をしながら連携をとりご本人やご家族が安心できるよう努めている。	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」について説明し、同意を得ている。方針は家族の意向を大切にしながら、グループホームとしてできることとできないことを明確にしている。家族の要望により、医師、看護師、職員で連携を図り、平成28年9月看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は職員同士の連絡体制を決めており情報の共有とともに協力体制がとれるようにし、迅速に対応ができるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行う際は自衛だけでなく消防署に協力もしていただきながら行っている。地域の協力を得られるように努めながら、自治体の防災訓練にも参加するように努めている。	2月に日中を想定した消火・避難誘導訓練を実施した。秋には消防署協力の下、夜間想定訓練を予定している。備蓄は、飲料水、非常食等3日分が備品リストで管理され、玄関にはセーフティハットや非常用持ち出しリュックサックがある。	近隣住民への呼びかけを行い、訓練への参加や協力を得られるよう期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様一人ひとりの人格を理解し、否定的な言葉かけや対応に十分注意し、一人ひとりに沿った対応を心がけている。	毎年法人でコンプライアンス研修を行っている。介護記録に記載する際に、他の利用者名はイニシャルで記載している。利用者が排泄を失敗した際は、周囲に分からないように心掛けており、着替えを持って直接トイレに入らないよう指導している。個人情報に係る書類は、事務室の施錠できるキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩やお手伝い、入浴、お手洗いなど声かけする際は、職員本位ではなく自己決定ができるような声かけを意識して対応するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様一人ひとりのペースを優先に考え、職員のペースや都合が優先とならないようにできるかぎりお客様の希望に沿った対応ができるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を一緒に選んだりご自身で選べる方は着たい物を選んだりお化粧を楽しまれたりと自己決定にそったその人らしい身だしなみができるようにしている。近くの美容室へカット、カラーに行かれる方の付き添い支援も行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理のお手伝いが出来る方と野菜の皮むきやおやつ作りなどを一緒に行っている。食器洗いや食器拭き、片付けなども出来る方と一緒にしている。	昼食と夕食は、業者から食材を購入し、献立に沿って職員が調理している。朝食は、前日利用者とともに店で購入した食材を使っている。利用者は、下膳、食器洗い、食器拭きなどを出来る範囲で手伝っている。皮むき等の下準備を行う利用者もいる。職員が利用者の食事時間に休憩に入ることがある。	食事時間中は最も事故が起こりやすいものです。職員の休憩時間をずらしたり、職員配置を工夫するなどして、事故防止と共に利用者と職員が楽しく食事ができる取り組みを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量ともに日々記録を残し摂取量の把握に努めている。食事形態の工夫から一人ひとりの好みの飲み物にて提供を行い十分な量を確保できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一部介助が必要な方でもうがいやブラッシング、義歯の取り外しなど出来ることは行っているように支援している。訪問歯科診療にて定期的に来ていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿便意を訴えられる方は都度お手洗いへ誘導し失敗の防止に努めている。排泄の記録をもとに時間をみて誘導を行いお手洗いで排泄ができるよう支援している。	各ユニットに3か所トイレがあり、うち一つは浴室と繋がっていて失禁時には羞恥心に配慮した対応ができる。トイレ誘導や声かけは、食事前後等に定期的に行っている。トイレの目印をドアと床に貼るなど工夫しており、位置が分かりやすい。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や買物に出かけ身体を動かしていただき、外出が苦手な方も食事の前の体操や室内を介助にて歩いていただいたりしている。水分量が足りない場合は好みの物を提供したり牛乳など乳製品を適度に摂取していただいたりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お客様が自己決定できるよう入浴のお誘いをしている。ご自分のペースで入浴されたい方は職員側の時間の都合を優先せず、入浴が楽しみとなるようお客様のペースで入っていただけるよう心がけている。	入浴は基本的には週2回であるが、希望があれば回数以上の入浴が可能である。浴室は縦の手すりを多く配置して浴槽の出入りに配慮している。入浴を好まない方には、お風呂という言葉は使わずに「さっぱりしたくないですか。」などと声かけの工夫をしている。5月に菖蒲湯を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や外出で疲れている様子の時はお昼寝を促したりご本人の意思にそって身体を休めていただくようにしている。夜間帯も季節に応じて室温管理と湿度管理を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は職員2名で誤薬がないよう名前、日付、用量の確認を毎回行っている。薬の服用にあたり症状の変化についても日々観察を行い特変があれば往診医への相談のもと指示を仰ぎ対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や買物、室内では歌を唄ったり貼り絵などの共同制作を日常的に行うようにしている。食器拭きや食器洗い、洗濯物など家事も行っていただくことで役割をもって生活ができるよう務めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物のお誘いをするようにしています。お客様からも外出希望があるときは支援ができるように努めている。馴染みの場所などもご家族様の協力のもと外出ができるようにしている。	遠出はしないが事業所近くのホームセンターにあるペットショップに動物を見に出かけたり、玄海田公園に散歩に出かけている。車椅子の方も一緒に散歩や買物に出かけている。職員と美容院の帰りにお茶を飲む利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かりしているお金はお客様の財産であり、自由に使える事を理解したうえで、欲しいものの訴えがあれば買物と一緒に出かけ、購入できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様、ご家族様双方の希望に応じて電話でお話ができるようにしている。手紙も宛先の間違いを確認させていただいた上で、やり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは日中、陽当たりが良いこともあり明るい環境となっている。各居室の表札部に季節感のある飾りを施したりしている。キッチン是对面式で廊下も開放的なつくりとなっている。	1階にウッドデッキがあり、居間は日当たりがよい。居間や階段の壁面には、季節を感じる手作りの飾りつけをしている。トイレの目印がドアと床に貼られ、位置が分かりやすいように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで利用者だけで会話が續かない時は歌レクを行ったりお手伝いを共同でお願いすることで会話が弾んだり、利用者同士の関係が築けるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものとしてダンス、仏壇、布団などお持ち込みいただき住み慣れた環境となるようご本人やご家族の意見を取り入れるようにしている。一人の時間が退屈にならないようテレビを持ち込まれる方もいる。エアコン設備、クローゼットを活用していただき居室内で過ごしやすくなるようにしている。	各居室入口に、楕円形の木製の表札を掲示し、自分の部屋が分かりやすいように工夫がされている。利用者は使い慣れたベッドや、テレビ、ダンス、椅子などを持ち込んでいます。またベッドを好まない方は、布団を使用している。ぬいぐるみやカレンダー、写真等を飾り、それぞれに居心地のよい空間にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関から施設内の廊下、トイレ、浴室には手すりを設置しておりバリアフリーの環境となっている。壁掛け時計にて時間の感覚がつかめるようにし、安全にできるだけ自立した生活に繋がるようにしている。		

事業所名	ニチイケアセンター長津田
ユニット名	2階 ゆうゆう

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は開所当時より作り事務所にて掲げている。1階は一つの家族のようにほのぼのとした家、2階はその人らしく豊かにゆうゆうと過ごせる家となるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所開設時から自治会への加入をしています。隣の建物で時々行われるバザーにお客様と足を運んだり、近隣の美容院へ通い、顔馴染みになることで事業所としてのご理解もいただけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校で活動している福祉委員会の生徒たちと交流会を重ね、認知症高齢者との関わりを持ち、認知症についての理解や関わり方の工夫や方法を学んでいただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議の開催をしています。ご家族、地区民生委員、地域包括センター職員、他法人の管理者に参加して頂き、状況報告と改善点について話をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	横浜市認知症協議会に加入し意見交換等をしサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを設置しいつでも内容が確認できるようにしている。なにが身体拘束にあたるのか職員がそれぞれ意識しながらケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてのマニュアルを設置しいつでも内容が確認できるようにしている。声かけの言葉やコミュニケーションの取り方に注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性がある場合は、話し合いの場を設け支援に繋がるようにしていくと同時に職員にも学ぶ機会を設けていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居前に契約書に沿って読み合わせをしながら十分な説明を行い、不安な点や疑問点がないか確認をしながら、ご理解とご納得いただけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員もご家族のご意見・ご要望を常に聞き、内容を共有をしていくことで反映につなげられるようにしている。 苦情連絡相談窓口を設置と連絡先の掲示、玄関にご意見箱も設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やホーム会議を開催し、意見交換や提案する場を設け内容の共有を図っている。個々でも話しを聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の健康状態や勤務状況など話しを聞きながら把握に努めている。また家族愛経営を念頭にサンクスファミリーデーを設け条件整備も行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内で開催される研修の紹介と参加を促している。 外部研修についてもできる限り日程が合う研修については参加ができるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他グループホームと相互で運営推進会議に参加し、同業者としての問題点、改善方法の共有を図り、良いものを反映していくことでサービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご自宅への訪問やご来所していただき、実際に施設の雰囲気を感じていただきながら、不安なことや要望についてお話を伺い安心していただけるよう関係をもつようしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご自宅への訪問やご来所の際にも不安な点やご不明点、ご要望についてお話を伺い、安心と信頼をもっていただける関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況把握を行い、その時に必要な支援の内容とご要望に応じて対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様個々で得意な事やできる事が行える環境を作り、買物の外出や家事を一緒に行ったり、コミュニケーションを日々取ることで共に生活をしている事を感じていただけるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出、外食、外泊がいつでもできるようにしている。本人からの職員やご家族へのご要望やご意見については内容の共有をご家族とすることで、共に支えていける関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	交流をされていた馴染みの人やご友人にはご家族確認のもとご来所いただき関係性が継続されるようにしている。馴染みの場所や物についても外出できるよう支援をしたり持ってきていただき馴染みの		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1階、2階の交流を持てるようにしながら、コミュニケーションがうまく取り合えるよう職員が橋渡しを行いながら関わりをもてるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去をされた後もご本人の状況について連絡をいただいている。他施設へ移られたあとも相談の電話を承り、一緒に改善策を考えたりもしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	外出が好きな方は散歩や買物へお誘いしている。ご本人の希望や意向をお聞きし、意思確認をした上で、できる限り希望に応えられるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を基にサービス利用歴や経過の把握をしている。ご家族にも生活歴や馴染みの暮らし方についての情報をお聞きし入居後も反映できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調管理と観察からお客様の状態変化を把握し、状況に応じた対応方法や注意点などの情報共有を図り、適切な対応をするよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者が中心となり課題点や利用者の気持ちの把握に努めモニタリングを実施。意見を基にカンファレンスを開催し、現状に沿った介護計画の作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々介護記録や管理日誌を活用しお客様の特変や気づきを記入しいつでも確認できるようにしている。申し送りでも職員間での情報共有を図り、対応する事で改善点や発見を介護計画の見直しに活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じてその場に付き添う要望などがあった場合は事前連絡のもとご家族の宿泊も可能となっている。ニーズに沿った対応ができるように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーへの買物に出かけたり、散歩中に近隣の方との交流や子供達との交流も図れている。また美容院へ付き添いカット、カラーをすることで心身の力を発揮し豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ユニット毎で9名の往診が隔週2回あり、職員からの日々の情報提供を行い、状況に応じた適切な診察が受けられるよう医師とも連携を図りながら健康管理に努めている。突発的な病状についても臨時往診が受けられる態勢がある。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師が来ている。お客様の健康状態や相談をしながら連携をとり健康の維持に努めている。往診医との相談ツールとしても活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際はご本人の様子と現状の確認や処置内容など面会に訪れた際に把握するようにしている。ご家族や病院とも連絡を取りながら情報交換をしながら関係性を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	平成23年より医療連携体制加算をとっている。利用者が重度化や終末期となった場合には提携医、訪問看護師と相談をしながら連携をとりご本人やご家族が安心できるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は職員同士の連絡体制を決めており情報の共有とともに協力体制がとれるようにし、迅速に対応ができるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行う際は自衛だけでなく消防署の協力もしていただきながら行っている。地域の協力を得られるように努めながら、自治体の防災訓練にも参加するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様一人ひとりの人格を理解し、否定的な言葉かけや対応に十分注意し、一人ひとりに沿った対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩やお手伝い、入浴、お手洗いなど声かけする際は、職員本位ではなく自己決定ができるような声かけを意識して対応するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様一人ひとりのペースを優先に考え、職員のペースや都合が優先とにならないようにできるかぎりお客様の希望に沿った対応ができるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を一緒に選んだりご自身で選べる方は着たい物を選んだりお化粧を楽しまれたりと自己決定にそったその人らしい身だしなみができるようにしている。近くの美容室へカット、カラーに行かれる方		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理のお手伝いが出来る方と野菜の皮むきやおやつ作りなどを一緒に行っている。食器洗いや食器拭き、片付けなども出来る方と一緒にいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量ともに日々記録を残し摂取量の把握に努めている。食事形態の工夫から一人ひとりの好みの飲み物にて提供を行い十分な量を確保できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一部介助が必要な方でもうがいやブラッシング、義歯の取り外しなど出来ることは行っていたりするように支援している。訪問歯科診療にて定期的に来ていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿便意を訴えられる方は都度お手洗いへ誘導し失敗の防止に努めている。排泄の記録をもとに時間をみて誘導を行いお手洗いで排泄ができるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や買物に出かけ身体を動かしていただき、外出が苦手な方も食事の前の体操や室内を介助にて歩いていただいたりしている。水分量が足りない場合は好みの物を提供したり牛乳など乳製品を適度に摂取していただいたりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	お客様が自己決定できるよう入浴のお誘いをしている。ご自分のペースで入浴されたい方は職員側の時間の都合を優先せず、入浴が楽しみとなるようお客様のペースで入っていただけるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や外出で疲れている様子の時はお昼寝を促したりご本人の意思にそって身体を休めていただくようにしている。夜間帯も季節に応じて室温管理と湿度管理を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は職員2名で誤薬がないよう名前、日付、用量の確認を毎回行っている。薬の服用にあたり症状の変化についても日々観察を行い特変があれば往診医への相談のもと指示を仰ぎ対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や買物、室内では歌を唄ったり貼り絵など共同制作を日常的に行うようにしている。食器拭きや食器洗い、洗濯物など家事も行っていただくことで役割をもって生活ができるよう務めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物のお誘いをするようにしています。お客様からも外出希望があるときは支援ができるように努めている。馴染みの場所などもご家族様の協力のもと外出ができるようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かりしているお金はお客様の財産であり、自由に使える事を理解したうえで、欲しいものの訴えがあれば買物と一緒に出かけ、購入できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様、ご家族様双方の希望に応じて電話でお話ができるようにしている。手紙も宛先の間違いを確認させていただいた上で、やり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは日中、陽当たりが良いこともあり明るい環境となっている。各居室の表札部に季節感のある飾りを施したりしている。キッチン是对面式で廊下も開放的なつくりとなっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで利用者だけで会話が續かない時は歌レクを行ったりお手伝いを共同でお願いすることで会話が弾んだり、利用者同士の関係が築けるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものとしてダンス、仏壇、布団などお持ち込みいただき住み慣れた環境となるようご本人やご家族の意見を取り入れるようにしている。一人の時間が退屈にならないようテレビを持ち込まれる方		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関から施設内の廊下、トイレ、浴室には手すりを設置しておりバリアフリーの環境となっている。壁掛け時計にて時間の感覚がつかめるようにし、安全にできるだけ自立した生活に繋がるようにしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ニチイケアセンター長津田

作成日 平成28年11月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所理念を職員全員が共通認識を持って意識できるよう理念を作り上げる。	現在の事業所に合った理念を作成するため、職員の意見を取り入れながら作り上げる。	会議の場や個別で事業所の特色や良いものを職員ヒアリングし、意見を取りまとめていく。	2017/9/30
2	4	運営推進会議を開催するにあたり自治会への呼びかけを行い、参加を促す。	地元自治会の方へ参加を促し、地域の方との情報共有の場として活用する。	自治会への呼びかけや回覧板で事業所紹介も兼ねて参加していただけるよう取り組む。	2017/9/30
3	35	防災訓練を行うにあたり地域住民への呼びかけ、参加をしていただく。	防災訓練に参加協力をしていただくことで、非常災害時に連携や協力体制が相互に築ける。	訓練を行う日程などを回覧板などを活用して回覧するなどの取り組みを行う。	2017/9/30
4	40	利用者の食事時間に職員が休憩に入るのではなく時間をずらすなどの対策をする。	業務内容の見直しをしながら、職員の休憩時間が確保できるように時間帯の改善に努める。	ホーム会議やユニット別の会議で休憩時間について話し合いの場を設け、見直し、改善を図る。	2017/9/30
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。